

昭和63年度の中山地区発掘調査

坪の内・向畠・南中島遺跡



松本市教育委員会



坪の内遺跡出土遺物
縄文時代中期中葉の土器。いずれも高さ24cmの深鉢、左は口縁に把手をもち、底が傾いている。右は力強い陸線文をもつ。



縄文時代中期中葉の土器
左は高さ22cmの深鉢。波状の口縁で文様は簡素である。右は背の低い深鉢。このページの4点は土器集中区からの出土である。



縄文時代後期中葉の土器　浅鉢を斜め上から撮っている。口縁の内側に網文と波線で文様を描いている。外側は無文。口径30cm、高さ16cm。



磨製石斧・石製品　上段右側は硬玉製。左端の石棒は被熱している。下段は石を磨いたもので、今回の調査では多数出土している。



ミニチュア土器 祭器として使われたと思われる。上段中央は把手と注口をもつ。下段右は有孔磨付土器を模している。出土数は多い。



土偶・土製品 土偶は数十点出土した。上段右端は土製耳飾、下段右端はスプーン型土製品。柄の端部に穴があいており、先端は欠損している。



坪の内遺跡調査区中央部（北東上空より） 西向きの斜面に集落が展開している。中央部の一段高くなった所に住居址12軒と土塙、配石が集中している。



調査区西部（南西より） 左端ガ2軒の住居址（18・19号）。西側の平坦部中央は遺構が少なく、台地の辺部に沿って土塙が集中している。



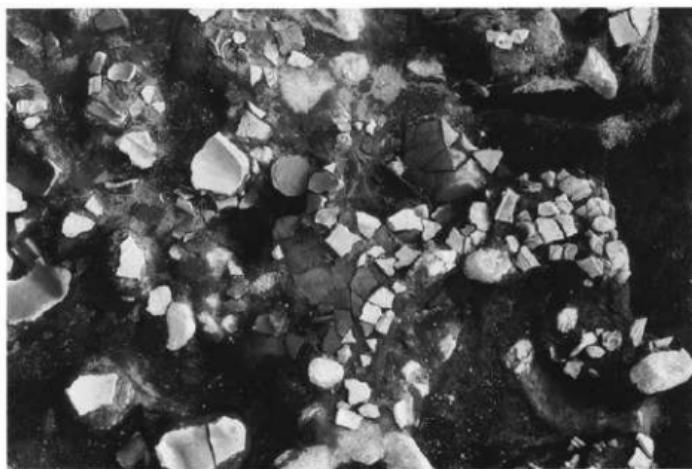
第13・14号住居址（手前が14号、北より） 縄文時代前期の住居址。
調査した25軒中、最も古い。南西の隅にあり、時期により生活の場が異なつ
ている。



土器集中区全景（東より） 北向きの斜面にある。縄文時代中期・後期
が主体で、下層からは早期・前期のものが出土している。



土器集中区部分（その1） 繩文時代中期中葉から後葉の土器。集中区は黒色土の厚い堆積の中にある、遺構の検出は困難であった。



土器集中区部分（その2） 上部中央に土偶の頸がある。土器は一つの面にまとまっている。土偶等の土製品も多く出土している。



土器集中区部分（その3） 前の写真に続く。中央部の炉の周辺に土器が集中している。この縄文の集落は松本平有数の規模のものである。



土器集中区全景（西より） 手前右端は縄文時代後葉の住居址。左端の道路横には集石がある。約300haの範囲に土器が集中している。



第18・19号住居址（手前が18号、南西より） 姥文時代中期後葉の住居址。18号の方が新しい。手前が入口で中央に炉がある。改築されており柱穴が多い。



第18号住居址炉（南より） 18号住居址の炉。一边1mを越える。炉石は一部が抜かれている。底には土器の破片が重なっていた。



第19号住居址（南東より）　縄文時代中期後半の住居址。手前が入口で
埋甌の口縁が見える。中央の炉の石は1つを残し抜き取られていた。



第19号住居址埋甌（半截状態、南より）　2つの甌が埋設されている。
いずれも口縁を欠くのみで底部は完存している。大きい甌の脇には平らな石
が置かれている。



第20・21・22号住居址（右から20・21・22号、南西より）
いずれも縄文時代後期の住居である。主軸上に大きなピットがあり、柱穴は
壁に沿って巡っている。



第22号住居址敷石（北より）　壁のやや内側に鉄平石が敷かれており、
その外に大きな石が立てられている。右下の大きな穴には石棒が入っていた。



第4・5号住居址（手前が4号・北より） 縄文時代後期の住居址が
2軒重なっている。新しい方の4号住居址は火災で焼絶され、床に焼土が
られる。



土塚311（南西より） 浅い穴の上に60cmを越える石を置き、回りに石を
配している。縄文時代後期の墓と思われる。



配石群（北西より） 4つの配石が重なっている。中央のものは長方形の石棺状をなす。縄文時代後期の墓と思われる。



南中島遺跡 鉢塚地区 磚が高く積まれ、古墳ではないかと言われていたが調査の結果、中世以降の石積と判明した。



坪の内遺跡航空写真(写真の上が北) 台地の上に集落が円形に展開している様子がわかる。中央部の黒い部分が土器集中区、右上は古墳。(中山10号墳)

今回の調査では住居址25軒、土塙約100基、配石約20基などが検出された。
(1989年12月23日撮影)



向畠遺跡作業風景 今回の発掘調査では縄文時代～古墳時代の家の跡、古墳時代～近世に亘る土塙（穴）等が見つかった。写真は中世以降の墓址群の掘り下げ作業。



墓址群 中世以降の墓址群は丘状台地上の平坦地に数多くみつかった。写真では3ヶ所に方向を揃えて集中している様子がわかる。右上遠方に南中島遺跡がある。



墓址群 中央に見えるのは古墳時代の溝塚である。中世以降の墓址群に壊されている。縄文時代～近世にわたるすべての遺構は二次堆積ロームの検出面でみつかった。



縄文時代の土塙群 調査地西端には縄文時代の土塙群がみつかった。丘状台地のはずれには縄文時代の土塙がみられ、中世以降の墓塚（墓穴）は少数である。石は地山に含まれる自然のもの。



土塙1220 西側の壁に突出部を持つ中世以降の火葬墓である。覆土中からは、多量の炭化物と共に焼けた人骨や副葬品とみられる古鏡数枚が出土した。蓋、底面も被熱し固くなっていた。



土塙1240 中世以降の墓の跡と思われる。上から見た形は四角形である。壁は真っ直ぐに掘り込まれている。中世以降の墓址は万形、長方形のものが多い。



第53号住居址 古墳時代前期の家の跡。火災に遭つたらしく、焼け落ちた材木等が放射状に広がっている。手前は家の埋まつた後に作られた向畠11号古墳の周溝。



第51号住居址 古墳時代前期の家の跡。壁の直下を巡る溝がある。奥の壁右側には食物等を貯蔵する為に掘られた穴がみえる。屋根を支えた柱の痕はみつからなかつた。



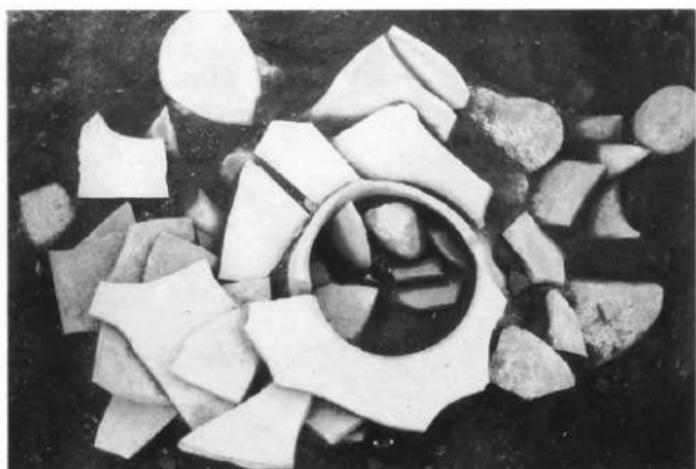
向畠12号古墳遺物出土状況 2個の壺が古墳の周りに掘られた溝（周溝）の底面から浮いた状態で出土した。



向畠12号古墳 直径24mの円墳。主体部は削り取られ周溝のみを見つかった。たまたま馬の古墳時代前期の住居址がかつてあつた場所に構築されている。



向畠11号古墳 向畠11号古墳は12号墳に接する直径29mの円墳である。全周する周溝からは櫛と共に多量の遺物が出土した。



向畠11号古墳遺物出土状況 須恵器（ねずみ色の使い土器）の壺が周溝の底面より逆位につぶされて出土した。



同古墳遺物出土状況　周溝からは多量の土師器（赤味のかかった素焼の土器）・須恵器・鉄器がまとめて出土した。すべて底面からは10cm程浮いており、設置されたものではないと考えられる。



同古墳遺物出土状況　土師器の鉢と須恵器の蓋が重なっている様子が見える。左下には周溝の底面が見える。



同古墳遺物出土状況 須恵器の罐である。向船地区一帯に見られる石英閃緑岩と一緒に出土した。この罐が埴丘の葺石として使われていたか否かは不明である。



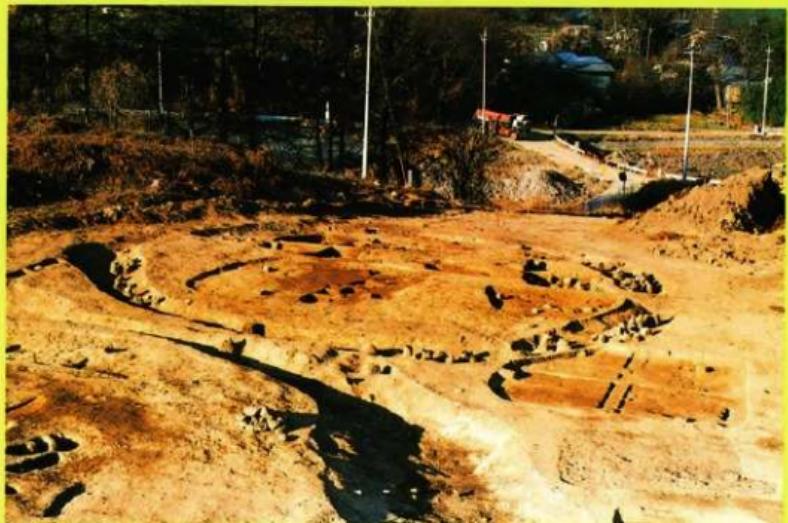
同古墳遺物出土状況 挖り下げ状況。隣接する12号古墳同様主体部は削平され確認できなかつた。埴丘下には縄文時代の土塙、古墳時代前期の住居址があつた。



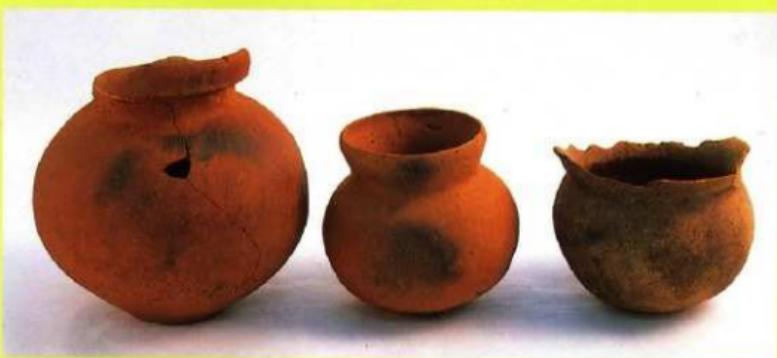
向畠8号古墳遺物出土状況　台地の南斜面に確認された8号古墳は横穴式石室を持つ円墳である。人骨・齒と共に馬具・鉄鏡・勾玉・ガラス小玉等の副葬品が発見された。写真は鉄鏡の出土状況である。



向畠8号古墳主体部　南に入口のある横穴式石室である。付近一帯にある石英閃緑岩を用いて構築されている。何段かに積まれていたと思われるが、後に破壊され、1段のみ残る。



向畠12号古墳全景 丘陵の尾根上にある直径24mの円墳。周溝の幅は150cm、深さは50cm程度である。真丘は残っていない。手前の溝は向畠11号古墳の周溝。



向畠12号古墳遺物出土状況 向畠12号古墳から出土した3点の古式土器。



向畠11号古墳周溝遺物出土状況　土師器の鉢と須恵器の蓋が重なつて出土している。



同古墳出土遺物　向畠11号古墳周溝より出土した一括の土器。



左：同古墳出土遺物　周溝の底面に逆位で押し潰された須恵器。

下：向畠日号墳
丘状台地の南斜面上にある円墳。南に開口する横穴式石室が一部残っていた。南側を除いて幅広の周溝が巡り、須恵器の高杯や壺等が出土した。





●1～3発掘調査地

1 : 15,000
0 100 500 1,000 1,500

- 1 向畠遺跡
- 2 坪の内遺跡
- 3-A 南中島遺跡 南中島地区
- 3-B 南中島遺跡 鉢塚地区

坪の内・向畠・南中島遺跡

昭和63年度の中山地区発掘調査概報

平成元年3月31日発行

発 行 松本市教育委員会
〒390 松本市丸の内3-7
TEL 0263(34)3000

印 刷 中信凸版印刷株式会社